

教

障がいのある子どもたちの豊かな未来のために支援する



小林 志保

Shiho KOBAYASHI

熊本県立菊池支援学校
勤務

教育学部養護学校教員養成課程・平成14年度卒

昭和55年生まれ、熊本県鹿本郡植木町(現熊本市)出身。熊本県立第一高校卒業。いつまでも子どもたちと一緒に元氣いっぱい動いて遊べるよう、運動を心掛けている。

熊大のココがイ!

同じ思いで共に励まし合える友達、尊敬できる先輩、先生と出会える。

身近に障がいのある人がいた経験から障がい者と関わる仕事を希望

小学生のころ同級生に障がいのある友達がいたり、特別支援学級の人たちと交流があったりしたことから、「障がいのある人と関わる仕事に就きたい」という漠然とした夢を持っていました。県内では、熊大教育学部養護学校教員養成課程が一番希望に近そうだったので、進学することにしました。

一人の男の子との出会いが教員になることを決心させた

大学に入ると、教師よりも保育園など就学前の子どもを相手に働きたいと思うようになり、保育士の資格を取得。正直、「夢に向かって」というほどの気持ちは持っていませんでした。しかし、卒論を書くにあたり障がいのある一人の男の子と関わり、その子が成長していく姿を見て「教師になろう」と決心。結果的に充実した学生生活になりました。

責任の重さを感じながらも子どもたちと一緒に楽しく活動!

現在教員8年目。子どもたちの人生に関わる責任の重みを感じ、反省や悩みが絶えません。彼らが成長していく姿や笑顔に励まされ、一緒に楽しく活動しています。熊大卒の大先輩たちが同じ職場にいるのも心強いです。子どもたちが将来豊かな人生を送れるよう、今を大切に、支援を行っていきたいと考えています。

卒業生 ジャーナル

Graduates' Journal

本学の卒業生たちの“今”に迫る「卒業生ジャーナル」。熊本県内はもとより、国内外で活躍する先輩たちのこれまでの歩みや苦労、そして喜び、楽しみなどを通して精励するその姿をご紹介します。

医

ママと赤ちゃんの安全を守り家族が増える幸せを支える仕事



上野 優加里

Yukari UENO

聖マリアナ医科大学病院(神奈川) 勤務

医学部保健学科・平成23年度卒

平成元年生まれ、熊本県合志市出身。熊本県立済々養高校卒業後、熊本大学にて看護師、保健師、助産師の資格を取得し、現在の病院に就職。助産師3年目として頑張る日々を送る。

熊大のココがイ!

志の高い友人や先生に囲まれ、自分の可能性を広げられる場所。

健康であつてもそうでなくてもその人らしく生きられる知識を学びたい

子どもや赤ちゃんが好きで、保育士など児童福祉に関わる仕事をしたいと思っていました。高校時代に自分自身が病気で入院した経験を経て、人がより健康に、また持病や障がいがあつても自分らしく生き生きと生活するための知識を学びたいと感じたのが、看護という職業を志したきっかけです。

貴重な経験と大切な友人を得ることができた大学生活

勉強や実習で忙しい日々でしたが、保健所の方と一緒にボランティア活動をする機会をいただいたり、長期休暇には旅行に行ったりなど、たくさんの貴重な経験を積めた充実した学生生活でした。病院実習や国家試験を通し友人と共に時間を過ごすことも多く、就職してから数年経った現在もとても仲が良いです。

家族が増える幸せな瞬間に立ち会える喜びとやりがいのある助産師という仕事

現在は助産師として、大学病院の産科病棟に勤務しています。リスクの伴う出産は緊張の連続ですが、ママと赤ちゃんの安全を守り、家族が増える幸せな瞬間に立ち会えるすてきな仕事です。患者さんから温かい言葉を掛けていただいたり、大きくなった赤ちゃんを連れて会いに来てくださったりと、たくさんの喜びとやりがいを感じられます。

法

映画を見て憧れた法曹の世界今、新米弁護士として日々奮闘!



西村 幸太郎

Kotaro NISHIMURA

弁護士法人あさかぜ基金法律事務所(福岡) 勤務

法学部法学科・平成19年度卒

昭和60年生まれ、長崎県長崎市出身。長崎県立長崎南高校から熊大、広島大学法科大学院を経て平成24年に司法試験合格。1年間の司法修習修了後、平成25年12月弁護士登録。

熊大のココがイ!

街にも近く、周りに飲み屋もたくさんあり、パイパスも近いので遠出にも向く立地。

映画の中の法廷シーンに刺激され法曹の世界に興味を持つ

中学生の時に見た法廷映画(特に最終弁論)が非常に印象的だったので、弁護士の仕事に興味を持ち、本を読むなどして知見を深めていました。漠然とながら法曹の世界に触れてみたいと思うようになり、絶対に弁護士にとまで思っていたわけではありませんが、法学部に進学しようと決めました。

勉学もプライベートもバランスよく

4年からはロースクール受験に向けてスタート。講義は比較的真面目に受講していました。3年の12月ごろまでは吹奏楽部の活動のため、また、バイトで貯めたお金でバイクを買ってツーリングに出掛けるなど、忙しいながらも充実した日々を送りました。4年になるとロースクール受験を本格的に考え始め、勉強の時間が増えました。

一人でも司法過疎地で活躍できる人材になるべく日々精進中

大学卒業後はロースクールで勉学に精進し、司法試験に合格。現在所属している法律事務所はいわゆる司法過疎偏在問題に正面から取り組んでおり、司法過疎地と呼ばれる地域に単身で乗り込んで働きちゃんとリーガルサービスを提供できる人材を養成しています。将来の過疎地赴任を見据え、日々の業務に励んでいます。

薬

アメリカで新薬開発のプロジェクトマネジメントを担う



清水 英介

Eisuke SHIMIZU

久光製薬株式会社
(ニューヨーク) 勤務

薬学部薬科学科・平成10年度卒／
大学院薬学教育部博士後期課程・平成15年度修了

昭和50年生まれ、宮崎県宮崎市出身。宮崎県立宮崎北高校から熊大、熊大大学院を経て、卒業後はプロジェクトマネジメントに興味を持つ。現在、ノーベン・ファーマシューティカス社に出向中、夢はプロジェクトリーダーとして新薬を世に出すこと。趣味は旅行・ゴルフ。

熊大のココがイイ!

雄大な自然と
適度な都会が
共存した街で、
人の優しさがあること。

世の中の役に立てることは何?

見えてきた医薬品開発という道

高校時代はバブル崩壊期で、将来が不透明になり始めた時期でした。手に職をつける必要性を感じ始めたころ、恩師に恵まれたこともあり、化学系の研究に興味を持ちました。両者を兼ねた上で世の中の役に立てることは何かと考えた時に、漠然とですが、医薬品開発に興味を抱くようになりました。

サークル活動や研究で
“絆”や“チーム”の大切さを知る

1〜3年は、学部のバレー部に所属。先輩後輩の絆を深める“勝手に大喰い大会”などを開催したりしました。4年から博士3年までは、昼夜問わず研究中心の生活に一変。研究室内、国内の他の研究室との共同研究や国内留学で、研究内容だけでなく、チームで働く面白さ・難しさを感じた経験が現在に生かされています。

さまざまな地域の関係者をまとめ

新薬開発を目指すエキサイティングな日々

現在、久光製薬米国子会社に出向し、プロジェクトマネージャーとして、新薬開発のための臨床試験計画から実施までを管理しています。グローバルなチームビルディングはエキサイティングな出来事の連続。言語だけでなく、他者の文化を理解し、尊重することも重要であることを日々体感しています。

文

“情報”の側面から 人の「学ぶ」をサポート!



木村 健太郎

Kentaro KIMURA

株式会社ベネッセ
コーポレーション(東京)
勤務

文学部人間科学科・平成19年度卒

昭和61年生まれ、福岡県北九州市出身。広島市立舟入高校卒業。電車で行く旅が好きで、九州をはじめ西日本はほぼ制覇。今年から東日本の開拓に情熱を燃やす。

熊大のココがイイ!

“自由”な雰囲気。
自分が動けば
さっと何でもできる
環境だと思います。

自分の世界を広げたい!

そうだ、熊本に行こう。

高校生のころは「野球選手に」などと考えていましたが、部活は途中で断念。自分の世界を広げたいと思い、倫理の勉強を面白く感じていたこともあり、哲学や心理学の研究に興味を持ちました。周りのみんなが東に進む中、何かと縁のあった九州が思い浮かび、熊本に行こう!と飛び込みました。

新設のコース、サークル活動

新しいこと、やりたいこと満載の学生生活

入学後は心理学や哲学よりもメディアやCM・広告などの面白さに目覚め、2年の時にコミュニケーション情報学コースへ。学業ではチームでのプレゼン準備に力を入れ、それ以外では広告研究サークルで学内イベントやWebサイトを運営したり、地域づくりのボランティアサークルで活動をしたりと、たくさんのフィールドを駆け回りました。

測定した情報を編集して

学びの気付き・きっかけをサポート

ものづくりや情報編集・発信をしたくて、今の会社に入社。これまでは岡山下、高校向けのテスト教材や情報誌の制作・編集などを通して、先生を支援する業務に携わってきました。この春、東京に移り、引き続き高校生向けテスト教材の制作・開発を行っています。人が学ぶ場面におけるサポートを、今後も行っていきたいと思っています。

工

都市計画の専門家として スケールの大きなものづくりに挑戦



本田 百合絵

Yurie HONDA

株式会社オオバ東京支店
勤務

工学部環境システム工学科・平成19年度卒／
大学院自然科学研究科博士前期課程・平成21年度修了

昭和61年生まれ、長崎県長崎市出身。長崎県立長崎西高校卒業。将来、生まれ育った九州でまちづくりの仕事をするのが夢、趣味は、パン作りと旅行。

熊大のココがイイ!

いい意味での
ドロくささと、
親しみやすい
雰囲気がある。

“まち”全体を計画するという
スケールの大きいものづくりに引かれて

幼いころから絵を描くことや工作が好きで、漠然とものづくりに関わる仕事がしたいと思っていました。高校時代、進路を模索している際に都市計画に興味を持ち、土木・建築系の学科へ進もうと決めました。建築物や構造物単体ではなく、“まち”全体を計画するという、スケールの大きさに引かれました。

とにかく行動!の日々。自由にのびのび
やりたいことをやれた環境に感謝

大学時代は、研究室のプロジェクトで地域に入り込んでまちづくりをしたり、演習合宿で他大学の学生と交流したり、資料収集のためあちこち走り回ったりと、行動、行動の日々でした。そうできたのも、やる気さえあれば、のびのびと自由にやらせてもらえる環境があったからこそだと思います。

関係者の調整役も担い

市民が主役のまちづくりを目指す

現在は、都市計画技術者として計画策定業務はもちろん、行政や市民、企業など、まちづくりに関係する皆さんの調整役も担っています。まちの主役は市民です。市民が検討の場に参加するワークショップを企画・運営することも多く、地域の方が真剣に考え、楽しんで参加している姿を見るとやりがいを感じます。

理

博物館の植物担当学芸員として たくさんの人に植物の魅力を伝えたい



山口 瑞貴

Mizuki YAMAGUCHI

熊本市立熊本博物館
勤務

理学部理学科・平成22年度卒／
大学院自然科学研究科博士前期課程・平成24年度修了

昭和62年生まれ、鹿児島県鹿児島市出身。鹿児島県立鶴丸高校卒業。小学生のときにまだ開発されていなかった“青いババ”の話を聞いたことがきっかけで研究者を志すように。

熊大のココがイイ!

尊敬できる先生が多く、
先生と学生の
距離が近いこと。

白衣を着た姿に憧れ

夢は「新しいことを発見する」研究者

「自分で何か新しいことを見つけたい」という気持ちが強く、白衣を着ての実験や、顕微鏡をのぞく姿に憧れ、漠然とですが研究者を目指していました。高校生のころから好きな科目は理科でしたが、当時はまだ化学と物理を勉強しており、生物の勉強は大学に入ってからです。

大学3年の時の講義がきっかけで

植物学の道を選択

学部2年までは、どのコースに進むか迷いさまざまな科目を受講しました。3年の時に受けた講義で植物に興味を持ち、植物細胞の遺伝学に関する研究室を選択。4年から修士2年は、指導教員の先生方とディスカッションしたり、研究室のメンバーと共に実験したりを繰り返す日々で、とても楽しい充実した研究室生活でした。

展示やイベントを通して

植物の情報と魅力を発信中!

現在は博物館で植物担当の学芸員をしています。主に熊本の植物について調査、研究を行うとともに、さまざまな企画展示や体験教室などのイベントを通して、人々へ植物に関する情報を提供したり、博物館の活動について理解を深めていただいたりしています。より多くの方に植物の面白さや魅力を伝えるため、努力していこうと思います。